

🏟️ 成長期野球選手肘検診 🏟️

～野球選手に知ってもらいたい肘の障害～

上腕骨小頭離断性骨軟骨炎をご存知でしょうか？

＜14歳の野球選手＞

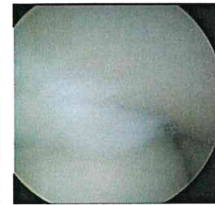
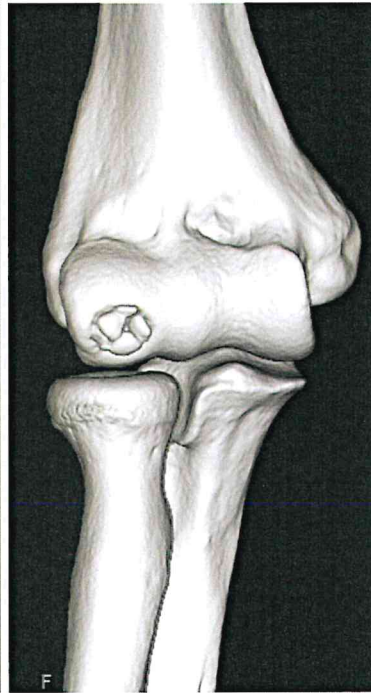
5歳から野球を開始

10歳ぐらいの時から

肘の違和感があったようですが

症状も軽いので放置していたようです。

13歳になって3月から肘の痛みが増してきて、肘が曲がりずらいので病院へ。



関節内遊離体(関節ねずみ)で手術に至ってしまいました。
幸い現在は症状なく競技を続けております。

上腕骨小頭離断性骨軟骨炎 (OsteoChondritis Dissecans : OCD)

＜沈黙の障害＞初期は痛みがない(自分ではわからない)

＜進行性の悪化＞初期から進行期、そして終末期へ徐々に悪化する
遊離体(関節ねずみ)の形成、変形性関節症(元に戻らない)

＜早期発見の重要性＞初期であれば95%は手術をせずに治癒

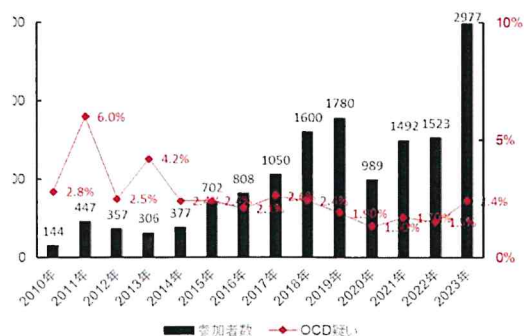
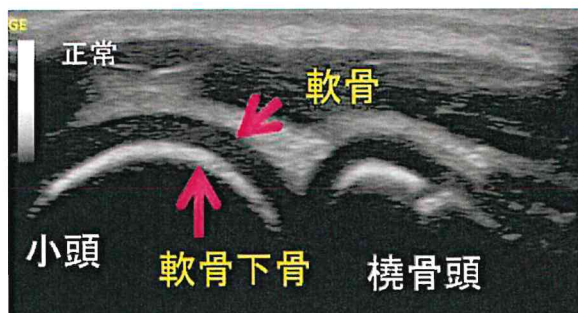
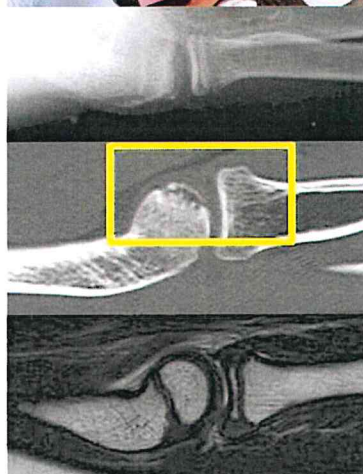
OCD早期発見のための超音波肘検診

- ・OCDは成長期野球選手の2～3%程度に発生すると言われています
- ・全国各地で超音波を用いた野球肘検診が行われています。
- ・北海道でも2010年から超音波野球肘検診が行われています。

2010年



2020年～



- ・1～2分でOCDがあるかどうかわかります。
- ・超音波はおなかの赤ちゃんをみるためにも使われており安全です。
- ・OCDは初期であれば95%程度の選手が手術をせずに治ります。
- ・野球を続けながら治療することも可能です。

好きではじめた野球を楽しく長く続けるために！
未来のスーパースターになるために！
是非、肘検診を受けましょう！！

肘検診の活動は北海道野球協議会が主催し、
北海道日本ハムファイターズの寄附や後援もあり実施しております
NPO法人北海道野球協議会ホームページ <http://www.npo-89kyougikai.or.jp/>
肘検診担当：門間太輔・沼口京介・吉野広一郎

